

基準水位について（解説）

1. 基準水位とは

基準水位とは、津波の浸水深に、津波が建物等に衝突した際の水位の上昇（せき上げ）を加えた水位であり、地盤面からの高さ（水深）で測られる。津波避難ビルなどにおいて、津波から避難する上での必要な高さの目安となる。

・計算方法

基準水位は、「津波浸水想定の設定の手引き」の方法に基づき算出する。具体的には、津波シミュレーションで得られた浸水深と流速から時々刻々の比エネルギーを求め、その最大値として基準水位を求める。

・津波浸水深と基準水位の違い

- 津波浸水シミュレーションは、10mメッシュ（10m×10m格子）でシミュレーションするため、建築物などの複雑な形状を有する構造物を再現することは難しい。そのため津波が建築物や地盤によって受ける抵抗を土地利用状況に応じて、粗度係数という形で与えている。
- 津波浸水シミュレーションで出力される「津波浸水予測図」は、建物等のせき上げは考慮されていない。
- 「基準水位」の算出にあたっては、建築物に対し津波が衝突した場合のせき上げ量を予測するため、実際の建築状況に関わらず、各メッシュに無限の壁をすべてで想定し、壁に衝突した際のせき上げ量を含んだ浸水深を算出し、そのメッシュの基準水位とする。ただし、これら壁があることによる津波遡上の低減についてはないものとし計算している。

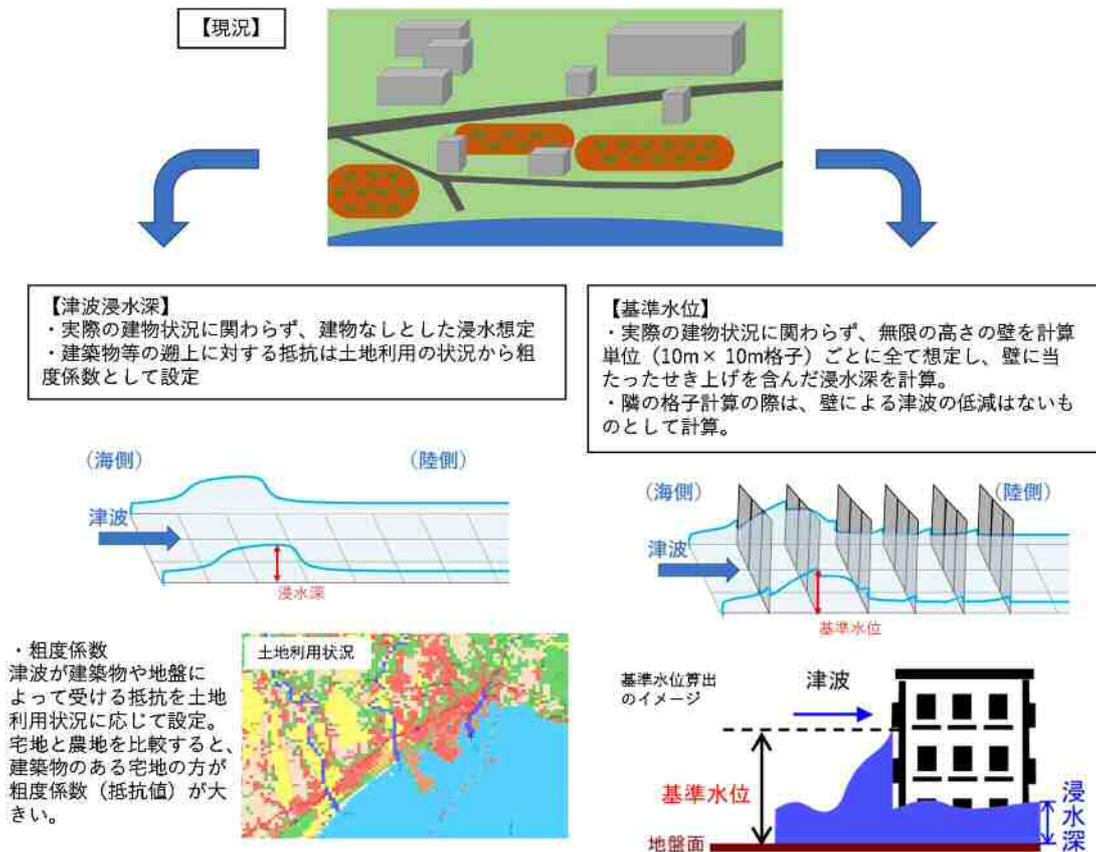


図 1 計算イメージ